

参考イメージ ～産地リスク低減に向けた取組内容～

| | ＜現状認識から始める＞ | ⇒ | ＜全員でもう一度学習する事を決める＞ | ⇒ ⇒ | ＜対策とルールの検討＞ | ⇒ | ＜対策とルールの実践と現場にあった修正＞ | ⇒ | ＜ゴールと新たなスタート＞ |
|---|--|---|--|-----|--|---|---|---|---|
| 全体 (持続的な経営のために) 一人の眼で見て、仲間の眼で見て、先行例等も参考にして、 ⇒GAPの実践 第三者の眼で見てもらい ⇒GAPの認証を取得 | 産地リスク対策実証事業に何故取り組むのか？ GAPで何が出来るのか？ | | 中核メンバーによる現行GAPのスキームの内容確認(研修受講) | | 答えは複数あっても良い | | リスク評価を定期的を実施し対策とルールの修正を継続 内部監査のできる人材の確保 | | GAP認証の取得と、維持・更新。 定期的な内部監査の実施 PDCAサイクルを効果的にまわす |
| 食品安全 (消費者に安全を届ける) 残留農薬を『確実に』基準値内にする。 微生物汚染を可能な限り低減させる。 消費者事故や誤表示につながる異物等の混入を排除する。 | 過去にさかのぼり問題になる事例があったか 自分の経験事例だけでなく、他の農場であった事例なども調べる、 | | 残留農薬事故が発生する可能性はどの段階にあるか 代表的な有害微生物の特徴 | | 適切な農業使用の計画と実践と記録そして検証 作業者の手、収穫容器、包装資材の安全と衛生的な管理 異物混入の対象物毎の対策 | | 新たな知見や、消費者行動の変化を認識し必要に応じ修正 交差汚染リスクの観点で見直し 実施を確実にする手段の検討(簡単に適切な点検記録) | | 定期的なリスクの再評価 |
| 労働安全 (働き手の事故は経営の危機につながる) ヒヤリハットの共有 ちいさな事故の回避が大きな事故の回避につながる 使用器具⇒小型機械⇒大型機械 の順に 整理整頓は事故防止の大きな力 危険物(農薬・燃料等)の厳格な管理 | 事故につながるかも知れないという小さな経験を遠慮せずに開示 器具・機械等の事故例(よその農場の事例でも良い) 事故例(よその農場の事例でも良い) | | 作業器具や機械の使用前点検のポイント 作業中にはいけない事 危険物については関連法規を正しく認識 | | 使用器具・機械の整備 保管場所の選定 注意・警告の掲示 作業者の教育訓練 | | 実施を確実にする手段の検討(簡単に適切な点検記録) | | 定期的なリスクの再評価 |
| 環境保全 (農業者は環境保全の先駆者であり栽培の妨げになる環境を作らない) 適正な施肥設計により地下水系等の富栄養化を防ぐ 健全な土づくりは土壌内の生態系の保全にもつながる 防除機器の洗浄水や、取扱い施設等で発生する汚水やゴミの適切な処理 | 過去の湖沼等でおきた問題を再認識 汚水・廃棄物をどう処理しているか | | 地域の土壌の特性。圃場の土壌分析と適切な施肥設計 過剰施肥が引き起こす問題 汚水・廃棄物の適切な処理 | | 適正な施肥設計の作成と継続的な土壌分析 栽培工程で実践すべき作業 | | | | |